

遺伝子組換え小麦 (MON71800) の暫定検査法新旧対照条文

○遺伝子組換え小麦 (MON71800) の暫定検査法 (平成25年 7 月 3 日付け25消安第1707号)

(傍線の部分は改正部分)

改 正 後	現 行
<p style="text-align: right;">(別 添)</p> <p style="text-align: center;">遺伝子組換え小麦 (MON71800) の暫定検査法</p> <p>1. 検査対象 本検査法では、小麦穀粒を検査対象とする。 <u>4 のリアルタイム PCR 法により MON71800 の混入が確認された場合には、5.2 の 1%混入判定試験を実施する。</u></p> <p>2～4 (略)</p> <p>5. 結果の解析と判定</p> <p><u>5.1 定性リアルタイム PCR 法</u></p> <p>(略)</p> <p><u>5.2 1%混入判定試験</u></p> <p><u>5.1 により MON71800 陽性と判定された試料 (以下「陽性試料」という。) については、1%混入判定試験を行い、MON71800 の混入率が 1%を上回るか確認する。</u> <u>試験においては、陽性試料と 1%陽性対照液*1 を用いて同時にリアルタイム PCR を実施する。操作方法は、「4. 定性リアルタイム PCR 法」による。</u> <u>判定に当たっては、まず陽性試料及び 1%陽性対照液について、MON71800 検知試験の Ct 値と小麦陽性対照試験の Ct 値との差 (<math>\Delta Ct</math> 値) をそれぞれ求める。さらに、陽性試料の <math>\Delta Ct</math> 値と 1%陽性対照液の <math>\Delta Ct</math> 値との差 (<math>\Delta\Delta Ct</math> 値) を求め、以下に従って判定を行う。</u></p> <p><u>(1) <math>\Delta\Delta Ct</math> 値が正の値であるとき、PCR 増幅量が閾値に達するまでに、陽性試料は 1%陽性対照液よりもサイクル数を要していることから、陽性試料中の MON71800 の混入率は 1%を上回っていない。</u> <u>(2) <math>\Delta\Delta Ct</math> 値が負の値であるとき、PCR 増幅量が閾値に達するまでに、</u></p>	<p style="text-align: right;">(別 添)</p> <p style="text-align: center;">遺伝子組換え小麦 (MON71800) の暫定検査法</p> <p>1. 検査対象 本検査法では、小麦穀粒を検査対象とする。</p> <p>2～4 (略)</p> <p>5. 結果の解析と判定</p> <p>(略)</p>

陽性試料は 1 %陽性対照液よりもサイクル数を要していないことから、陽性試料中の MON71800 の混入率は 1%を上回っている。

\*1 「1%陽性対照液」とは①、②又はこれらと同等のものをいう。

① MON71800 の穀粒 1 粒に対し 14 粒の遺伝子組換えでない小麦穀粒を混合・粉砕した試料から抽出された DNA 試料(モンサント社提供)を、DNeasy Plant Mini Kit (QIAGEN)又はそれと同等のものを用いて精製した後、滅菌済みの超純水で 10ng/μL に調製し、DNA 試料液 (「3. 小麦穀粒からの DNA 抽出精製」に従い、遺伝子組換えでない小麦穀粒から 10ng/μL に調製したもの) を用いて MON71800 濃度を 1%に調整した DNA 試料液

② MON71800 の穀粒の粉砕物を、遺伝子組換えでない小麦穀粒の粉砕物を用いて 1%濃度となるよう重量ベースで混合し、「3. 小麦穀粒からの DNA 抽出精製」に従い、10ng/μL に調製した DNA 試料液